【令和４年度公文書管理に関する市町村等職員研修会】

学校資料を残すためにできること
―自治体・学校・地域の役割―

高知県の学校資料を考える会　目良 裕昭

はじめに

近年、学校の教育活動や家庭・地域との関係のなかで生み出された文書や作品類、古くからある施設や備品を「学校資料」として見直し、学校や地域の歴史を語る資料として残していこうという動きが全国的に広がっています。しかし、文化財や遺跡などと異なり、資史料として保存・活用するための明確なルールが無いため、多くの文書類は行政規定や個人情報保護の観点から保存年数を過ぎれば廃棄され、施設や備品も破損や老朽化により更新されている現状があります。

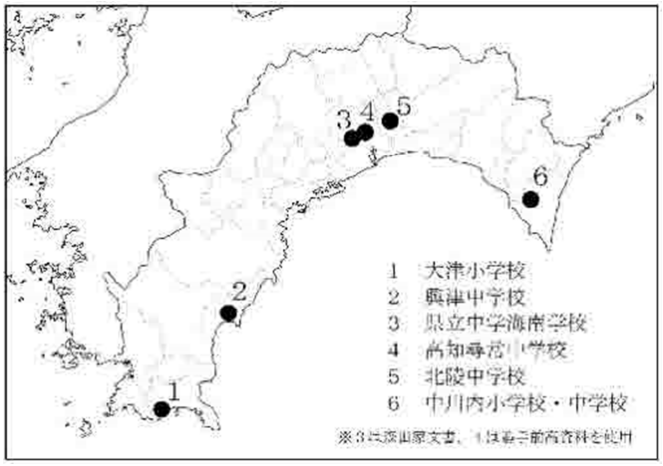
本報告では、高知県の学校資料を考える会（以下、考える会）が保存や活用に関わった事例から、豊富で多様な学校資料の実態、保存や活用を進めている地域の活動を紹介し、その成果と課題から学校資料を残すために自治体・学校・地域でできること、それぞれの役割について考えてみます。

学校資料とは

① 学校で作成・収受された文書類（行政文書、学校日誌、文集等）、写真や記録映像
② 学校で使用された教材教具や設備備品、所蔵する民具や考古資料等

〇学校資料が注目されるようになった社会的背景

学校が「人々の成長過程において大きな役割を果たし、地域の中心でもある」ことから、その資料が歴史的・社会的に重要な意味と価値を持つためと考えられている。



考える会が活動をとおして
関わった県内の学校資料

考える会の結成と段階的目標

考える会は、学校資料に関する全国的な関心の広がりを受け、高知県でも議論を深め、保存と活用の機運を高めようと、2019 年８月に学校事務職員や学芸員ら有志数名で結成した民間団体です。結成にあたり、以下のような段階的目標を掲げ、「現場運用との関係」や「現場・地域の参画」を意識して、「資料保存」に重点を置いた「現場支援」を行っています。2020 年以降、県内の教育委員会等と連携し、主に休廃校資料の救済・調査保存活動を支援しています。

１．考える会のおもな活動

2019 年	８月	考える会　発足
	12 月	シンポジウム「高知県の学校資料を考える」開催（A）
2020 年	６月	土佐清水市旧大津小学校資料の救済と整理・保存調査開始（B～D）
	７月	南国市北陵中学校寄託資料の調査協力（B）
	８月	シンポジウム「高知県の学校資料を考える」記録集の発行（A）
	11 月	高知県市町村教育長会議で「学校資料の保存と活用について」説明（A）
		こうちミュージアムネットワーク入会（A・D）
	12 月	室戸市中川内小中学校資料の調査開始（B）
2021 年	２月	土佐清水市でパネル「大津小学校資料の調査速報」の展示（A・C）
	３月	旧大津小の資料救済と調査について『こうちＭＮ通信』に寄稿（A・D）
	５月	「学校資料による地域史の復元」を『よど』に投稿（A）
	10 月	学校資料集『学校資料を残す・伝える』の発行（A～D）
	11 月	全史料協全国大会で学校資料の救済と調査保存に関して報告（A）
2022 年	１月	「中川内の日」行事協力（学校資料等を使ったパネル作成）（A・C）
	４月～	高知県立公文書館企画展「学校資料から見える世界」協力（A・C）

７月～　土佐清水市史資料編（学校資料）調査・執筆協力（A～D）

２．学校資料に関する啓発・普及活動（段階的目標Ａ）

2-1　シンポジウム「高知県の学校資料を考える」開催（2019 年 12 月 7 日）

○高知県の学校資料の現状に対する問題提起が目的

（現状）学校資料の管理・保存体制に課題、2020 年４月の高知県立公文書館開館

⇒学校現場における資料の評価・選別・保存・活用の問題、公文書館の役割や重要性をテーマに基調講演と３本の報告

○シンポジウムで出された意見

・県立公文書館は市町村の支援をすべき

・市町村に学校資料を含む行政資料等を保存する公文書館が必要

・資料の保存と活用について学校関係者や関係機関の意見も反映できる仕組みづくり

・県立公文書館に専門職員の配置が必要

⇒人的配置や行政的なシステム検討の必要性、収蔵スペースの不足などが今後の課題

○2020 年８月　シンポジウム記録集を発行

高知県教育委員会事務局並びに県内の市町村教育委員会事務局、全国の研究者に郵送

⇒研究者からの反応は大きかったが、教育委員会事務局からの反応は少なかった

2-2　こうちMNとの連携

○考える会は、こうちMN（高知県の博物館組織等連携組織）にシンポジウムの開催や高知県市町村教育長会議での説明に際して協力を仰ぐ

⇒こうした関係をふまえて 2020 年 11 月入会

こうちMNのネットワークを活かし、会員の博物館等に学校資料保存を啓発

2-3　学校資料を活用した地域での展示、地域史研究

○地域での展示

・2021 年２月、土佐清水市でパネル「大津小学校資料の調査速報」展示

⇒公民館サークル文化展・発表会で大津地域のテーマ展示の一部として作成

大津小最後の校長が来訪しその様子が高知新聞紙面に掲載されるなど、地域住民から大きな反響があった

・2022 年１月、室戸市「中川内の日」行事協力（学校資料等を使ったパネル作成）

⇒2021 年度末に閉校した小中学校のある中川内地域のイベントで、学校資料や高知新聞記事を使った学校の歴史を振り返るパネルを作成

〇地域史研究

・2021 年５月、「学校資料による地域史の復元」（『よど』22 号）投稿

⇒地方史研究団体の西南四国歴史文化研究会誌に、旧大津小学校資料（「学校沿革誌」「学校日誌」「校友会誌」「叶崎保勝会記録綴」）を用いて大津地域史の一断面を復元した小論を投稿。全国の研究者らに抜刷を発送

・2022 年７月～、土佐清水市史資料編（学校資料）調査・執筆協力

３．学校資料の救済と調査保存支援（段階的目標Ｂ・Ｃ）

土佐清水市西部の小さな海浜集落にあった大津小は、平成５年（1993）に休校しましたが、学校再開の可能性があったため、校舎は雨漏りの補修が行われ、現用文書や現有備品の多くが統合先の小学校へ移管されずに残されました（平成 16 年廃校）。こうした状況を経て令和初めに「発見」された旧大津小学校資料は、昭和末期の学校所在資料の総体を明らかにしうる稀有な資料群であり、考える会が中心となって救済と調査保存支援を行ってきました。

3-1　資料の救済

〇旧大津小学校資料の「発見」と調査支援に至る経緯

・2019 年、地域おこし協力隊企画の大津地域散策に参加した福田仁記者（高知新聞社）が旧校舎に多数の資料が残存している状況を確認

⇒土佐清水市の田村公利市史編さん室長に相談し、資料の一部を地域資料の保管場所としている旧中浜小学校に移管

・福田記者から情報を得た考える会が田村室長に調査支援を打診し、2020 年度から活動を開始することとなった

・調査初日に調査チームと土佐清水市教育委員会事務局が会合

⇒教育長・公民館長・生涯学習課長らが参加して下さり、全面的な協力を約束

〇救済活動

2020 年６月 12・13 日に実施

12 日午後から 13 日午前にかけて、旧大津小で資料救済を行う

救済した資料は順次、旧中浜小へダンボール箱・パンケースに入れて運ぶ

13 日は、旧中浜小での資料整理・旧大津小の資料救済の２班に分かれて作業を行う

午後には救済した資料を全て旧中浜小に搬出

２階奥の教室に運搬し、カーテンを閉める（光対策）、薄用紙で資料の上を覆う（虫害・光対策）等の処理を行う

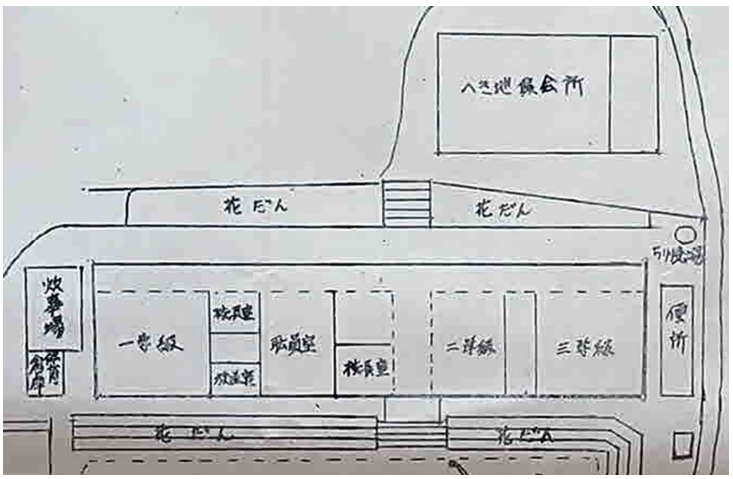
救済資料は、ダンボール箱・パンケース 75 箱（紙資料）、雑資料 75 点（モノ資料等）

・児童や教職員の個人情報を含む資料が残され、教材教具も移管されずに残ったものが多いのは、学校再開の可能性があったためか（通常の休校ではありえない残り方）

旧大津小　職員室

旧中浜小に搬出した資料

3-2　資料の概要



旧大津小校舎の平面図（図の上が北）

※平面図に記載はないが、放送室の北に保健室、校長室の北に休養室、二学級の東に理科準備室、三学級の東に用具室がある

部屋名	点数	割合
職員室	864	20.2%
校長室	1712	40.0%
休養室	223	5.2%
保健室	320	7.5%
放送室	5	0.1%
校具室	53	1.2%
理科準備室	364	8.5%
用具室	416	9.7%
一学級	1	0.0%
二学級	0	0.0%
三学級	0	0.0%
玄関・廊下	204	4.8%
不明	121	2.8%
合計	4283	

搬出場所と資料点数

○救済時の概況

汚損・損傷がひどい資料、施設破損により搬出が困難な資料を除き、4,283 点を救済

校長室・職員室　救済資料の約６割を占める（公文書、プリント類、文集など）

用具室　運動会関連とみられる用具類、図書（かつて図書室であったため）

理科室　標本など教材教具が多く残る

保健室　児童・教員の健診資料、ワクチン接種の資料、保健だよりなど

一学級　様々な資料が置かれていたが、教室の床が抜けており搬出できず

二学級・三学級　資料なし

○資料の概要

公文書、プリント類　昭和 30～50 年代が中心で、特に 50 年代が多い

学校運営、研究紀要・集録等、保健関係、児童文集、教職員（人事・服務）等

学校日誌は明治 30 年代から残る

小学校のほか、ＰＴＡ、大津保育園、校友会、叶崎保勝会などの関連文書を含む

収受文書　土佐清水市校長会、土佐清水市教育研究所、幡多へき地複式教育研究会等

書籍類　一般図書、指導書・教科書、副読本、教職員組合関連等

モノ資料　生物標本（大津海岸採集）、掛図、児童作品等

3-3　資料の整理調査

○調査日程

2020 年 7 月 18 日　１次整理のための予備調査

箱番号の付与、箱内の資料点数を確認、資料の大まかな分類を行い簡易目録作成

８月 10・11 日　１次整理①、クリーニング

資料の詳細目録作成、学校日誌（55/90 冊）撮影

11 月 20・21 日　１次整理②、クリーニング

資料の詳細目録作成、学校日誌（35/90 冊）及び重要資料撮影

2021 年３月 20・21 日　１次整理③

資料の詳細目録作成、資料保存処理

※８・11・３月の作業で図書類を除く約 2,000 点の詳細目録を作成

６月５日　重要資料撮影、資料保存処理　　⇒今後も継続予定

資料撮影

詳細目録作成　　保存処理

４．学校資料集『学校資料を残す・伝える』と県内の学校資料保存活動

4-1　学校資料集の発行（2021 年 10 月）

○読者対象は教職員・教育委員会事務局職員らを想定

「学校資料とは何か」「なぜ重要なのか」「どのように残せば良いのか」を示す

⇒県内の全ての学校、教育委員会事務局に発送予定

○学校資料集の構成

①考える会が救済・整理調査を支援した県内の学校資料を中心に 53 項目を紹介

⇒県内の小中学校で運用される管理規程との関係を付記し、現状の取扱いで当該資料が残るのか残らないのかを示す

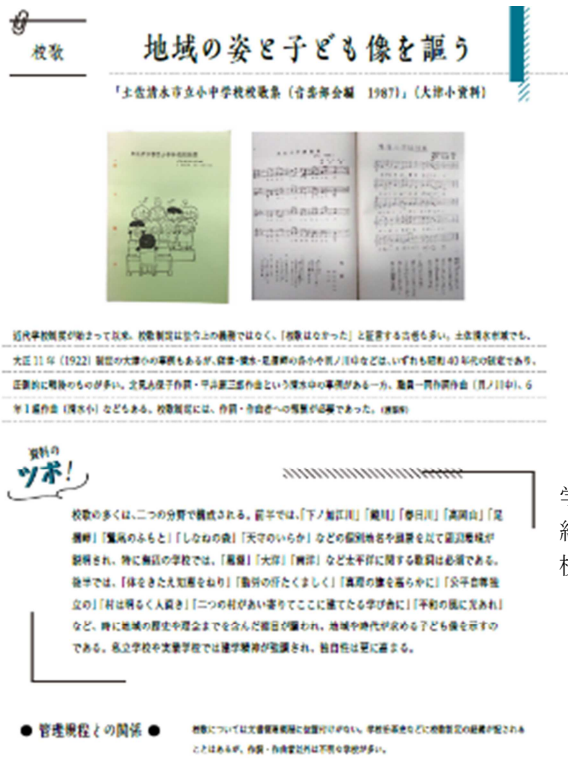
②学校資料に関する基礎知識、旧大津小学校資料の概要、管理規程からみた資料保存、基本的な整理・保管方法、活用の実例

①で多様な内容をもつ学校資料の面白さと価値を知ってもらい、②で学校資料の概要と保存・活用に関する課題や実例を提示することにより、学校や地域で資料保存に向けた動きが高まる効果を期待

○執筆者は小中学校教員・事務職員、大学教員、学芸員、新聞記者等 19 人

学校現場で日頃から学校資料に接している教職員、近代史や自然史の研究者といった多彩な執筆者が様々な視点から学校資料を紹介

⇒執筆者は旧大津小学校資料の救済や整理調査にも協力



学校資料集の抜粋と紹介した旧大津小学校の文書・モノ資料

4-2　高知県内の学校資料保存活動

ア）高知追手前高等学校

・学校資料を生徒が日常的に見られるよう、階段スペースを利用し一部展示

⇒資料の年代や簡単な解説を添え、「ミニ学校博物館」に

イ）室戸市　中川内小中学校（2021 年休校）

・室戸市教育委員会の依頼で休校前に２回（2020 年 12 月・2021 年２月）、考える会が資料調査を実施

⇒旧校舎を市教育委員会管理とし、資料保管場所とすべく進めている

⇒2021 年度末には地域イベント「中川内の日」を開催予定（コロナ禍で中止）

家庭に残る学校資料収集の呼びかけ、学校資料を活用したパネル展示など

ウ）中土佐町　久礼小学校

・土佐民俗文化研究会がネットワーク形式（30 人参加）で学校保存民具を整理

５．学校資料の保存と自治体・地域・学校の役割（むすびにかえて）

5-1　考える会による学校資料保存の支援

〇成果

・考える会は有志で立ち上げた民間団体であるため、要請次第で行政や学校の枠組に囚われずに支援することができる

⇒旧大津小学校資料（土佐清水市教委へ考える会から調査協力を打診）

旧中川内小中学校資料（室戸市教委から考える会に調査依頼）

北陵中学校所蔵資料（県立歴民館に寄託された資料を考える会が調査協力）

〇課題

・一方、民間団体であるがゆえに、支援は限定的にならざるを得ない

⇒学校資料を所有・所蔵する管理者（学校・関係機関）の考えにより、支援の在り様が左右される（支援自体ができないことも）

・会員は専門職でない人が多く、本業の合間に支援しており、時間的制約がある

・支援活動は無償ボランティアであり、財源は自己資金のみ

⇒考える会は設立以降、５つの研究助成金を獲得し、調査保存活動の旅費や人件費、消耗品費、保存用具費、出版物の印刷経費等に充てている

5-2　考える会をつうじた連携

〇考える会をハブとした支援ネットワークの形成

・旧大津小学校資料は救済資料数が多かった（4,200 点以上）ことから、支援計画を立てる段階で、多人数で複数回にわたる現地での活動が必要と考えた

⇒会員である学校事務職員・博物館職員・新聞記者の人的つながりを基に、

高知県内の大学教員や学生、博物館職員等に活動への参加と支援を依頼
⇒現地の土佐清水市職員や郷土史同好会員らも参加

・考える会と支援者（大学教員や学生、博物館職員等）、自治体担当者、地域の協力者らが一緒になって救済や調査を実施することで、資料保存のノウハウを拡げ、学校資料がもつ価値を共有する契機になった（50 人が参加する活動に）

5-3　今後の考える会と学校資料保存

○考える会は民間団体の強みと弱みをふまえ、活動の基本を①救済や調査保存の初動を支援する（管理主体はあくまで学校や自治体）、②考える会の関係者だけで活動せず、支援先の教職員や自治体職員、地域の協力者らとともに行うこととしている
⇒考える会の支援は限定的であることを認識してもらい、学校や自治体、地域で学校資料を継続的に保存・活用していく道筋をつける手伝い

○会の発足からこれまでの３年間は、研究助成費などを獲得して 50 人に及ぶ参加者の活動経費を捻出し、学校資料の救済・調査保存活動と広報・啓発に努めてきた

○これまでのような活動を今後長く継続していくことは体制面・資金面から難しいと考えるが、３年間の活動で得た人的つながりや学校資料への関心の広がりを活かし、高知県の学校資料保存・活用の相談窓口として学校・自治体・地域・博物館・研究者等をつなぎ、連携の軸となる活動を続けていきたい

○ホームページの開設（2021 年 7 月 30 日）
・活動履歴、保存に関わった学校資料の紹介、考える会発行の刊行物 PDF 等を掲載
⇒運用を進め、学校資料保存の啓発と考える会の窓口機能の強化を図る

5-4　学校資料を残すために　自治体・学校・地域の役割

☆高知県市町村教育長会議で「学校資料」に関する説明（2020 年 11 月 10 日）

○学校統廃合、コロナウィルス感染症対策による全国一斉臨時休業時の片付けなどで学校資料の処分や廃棄が進む現状を顧慮し、2020 年 9 月こうちミュージアムネットワーク（以下、こうちＭＮ）代表と高知県教育長を訪問し、保存と活用の問題提起

○市町村教育長が一同に会する会議で、県内で進む学校資料の保存と活用の動き、調査保存された事例を紹介し、保存と活用に関して３つのお願いと２つの提案を行う
１）学校資料の保存と活用を図る体制の整備を検討していただきたい
２）自治体・地教委・学校現場での動きを広げるため、考える会が周知・説明する場を設けていただきたい
３）先進的な実践や取組を参考に、学校資料を残すことができる土台（仕組み）づくりをしていただきたい

提案１）校舎内に「学校資料室」を設置、もしくは休廃校を利用し「学校資料館」として収蔵・公開を検討し、保存・管理の促進を図る

提案２）休廃校を学校資料だけでなく、地域の資料を未来に残す収蔵庫（資料館）へ

○考える会が相談窓口となり、調査保存の初動を手伝うことを呼び掛け
・2020 年度末に休校した中川内小中学校資料（室戸市）の調査を手伝う契機に
⇒室戸市では、休校の校舎を資料保管場所とし、活用や公開を考えていくことに

☆自治体・学校・地域で学校資料を残すために
○自治体で取り組む
１.通常の規程とは別に「学校資料を保存する」規程・仕組みをつくる
２.保管場所（休廃校等の利用　学校資料館）を確保する　学校→保管場所へ

○学校で残す
１.その学校ならではの特色ある学びや教育活動が分かる資料を残す
２.記念誌の掲載資料となるような情報を残す
３.地域の歴史や産業、魅力が分かる学習資料として活用できる資料を残す

○地域にお願い
１.学校資料の保存・活用に関する協力・ボランティアをお願いしたい
２.家庭に眠る学校資料の提供をお願いしたい（自治体・学校からの呼びかけ）

【参考文献】

楠瀬慶太・渡部淳・目良裕昭・髙木翔太　「学校資料による地域史の復元－土佐清水市旧大津小学校資料の調査より」西南四国歴史文化論叢よど 22 号（2021 年５月）

楠瀬慶太　「土佐清水市旧大津小学校の資料救済と調査」こうちミュージアムネットワーク通信 18（2021 年３月）

高知県の学校資料を考える会編　『シンポジウム「高知県の学校資料を考える」記録集』（2020 年８月）

高知県の学校資料を考える会編　『学校資料を残す・伝える－小中学校・高校に残る地域資料の世界－』（2021 年９月）

村野正景・和崎光太郎編　『みんなで活かせる！学校資料　学校資料活用ハンドブック』京都市学校歴史博物館（2019 年３月）

目良裕昭・楠瀬慶太　「「高知県の学校資料を考える会」の発足と活動」地方史研究 405 号（2020 年６月）

高知県の学校資料を考える会ホームページ

【URL】https://sites.google.com/view/school-archieves-kochi

【QR コード】